

一 般 質 問

令和6年9月9日（月）

3番 山本 由美子 議員

1. 石狩市指定ゴミ袋について

本市では、平成18年から有料戸別収集方式により一般家庭ゴミの収集が行われるようになりました。

石狩市指定ゴミ袋は5ℓから10、20、30、40ℓまで様々な容量があり、それぞれ1枚あたり10円から80円と価格が異なります。また本市には、紙おむつを使う乳幼児や寝たきりの高齢者には無償配布される制度もあります。どの容量もすべて10枚入りでの販売になっており、市民から要望が寄せられています。例えば「40ℓのゴミ袋は時々1～2枚使う程度なのでバラ売りしてもらえないか」という声があります。

また、近年ホームセンター等において、有料レジ袋の代わりに市指定ゴミ袋を売っている店舗が増え話題になっています。マイバッグを忘れた時や思いがけずたくさんの買い物をしてしまった時に市指定ゴミ袋を1枚購入し店舗で購入した商品を入れて持ち帰り、その後ゴミ袋として使うことができます。プラスチックゴミを減らす取組にもなり、無駄がなく一石二鳥かと思います。

石狩市指定ゴミ袋のバラ売りをする考えはないか、伺います。

2. こども誰でも通園制度について

近年、核家族化や近所付き合いの希薄化から、子育て家庭の多くが孤立した育児の中で不安や悩みを抱えており、支援の強化が求められています。

昨年、政府の「こども未来戦略方針」において、すべての子育て家庭を対象とした「こども誰でも通園制度」が決定されました。

この制度は、すべての子どもの育ちを応援し子どもの良質な生育環境を整備するとともに、すべての子育て家庭に向けて多様な働き方やライフスタイルに関わらない形での支援を強化するため、月一定時間までの利用可能枠の中で就労要件を問わず時間単位で柔軟に利用できる新たな通園給付制度です。

これは、子育て家庭への伴走型支援の1つになり孤立を防止し、保護者への支援につながる重要な取組であり、北海道においても札幌市や旭川市、函館市などで試行的事業が行われています。

こども家庭庁では令和7年度に「地域子ども・子育て支援事業」として制度化し、令和8年度から全国の自治体において本格実施することとしています。そこで質問です。

①関係事業者から現状や課題についてどのような声が上がっているのか、伺います。

②本市においては、導入に向けてどのように取り組んでいくのか伺います。

3. 放課後児童クラブについて

放課後児童クラブは、児童福祉法に規定されている子育て支援事業として、就労等により保護者が家庭にいない放課後等の時間に、小学生の児童の安全を確保し遊びや勉強など生活の場を提供することにより、児童の健全な育成を図る目的として実施されています。

利用するには毎年申請が必要で、保護者の就労日数や時間等が基準に満たない場合は利用できません。そこで質問です。

- ①石狩市では月額3,500円の利用料ですが、隣接する札幌市では無料で放課後児童クラブを利用できます。子育て世帯の負担軽減のため放課後児童クラブの利用料金を無料にする考えはありませんか、伺います。
- ②学校休業日に放課後児童クラブを利用する際、弁当を持参しなければいけません。一部の放課後児童クラブでは、希望者に有料で昼食を提供することが可能になっています。働く親御さんの朝の負担を軽減するためにも、すべての放課後児童クラブにおいて、希望者に昼食を提供するようにできませんか、伺います。

4. 学校における個人情報の取り扱いについて

近年、個人情報の取り扱いについての意識や関心が高まっています。

そんな中で、本年、札幌市の中学校において、生徒の個人情報が書かれた資料が他の生徒が閲覧できる状態で放置されていたという事故が相次ぎました。

教育ネットワーク情報セキュリティ推進委員会によると、近年は全国で毎年、年間200件ほどの個人情報漏えい事故が発生し、毎年、数万人から数十万人分の個人情報が漏えいしています。

漏えいの原因としては、紛失や置き忘れが約49%、他には誤公開や誤送信など。漏えいした媒体としては、書類が48%、他にはインターネットサービスやメール、USBメモリ、パソコンなど。書類の配布相手を間違えた、メールの宛先や添付ファイルを間違えた等、意図しない行為が42%を占めていることから、ケアレスミスによる事故を減らすための仕組みや工夫が必要と考えられます。

学校職員室から個人情報を持ち出す際の対策、パソコンに保存されている情報の扱い方等について、本市の考えや取組を伺います。

6番 山崎 祥子 議員

1. 水泳授業の安全対策について

水泳は教育基本法及び学校教育法では、知・徳・体のバランスとともに基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視し、学校教育において、これらを調和的に育むことが必要である旨が法律上規定されています。

毎年水泳等の事故防止についてスポーツ庁から通知が発出されていますが、今年7月に

小学生の児童が亡くなる事故が起きるなど毎年のように事故が起きております。そこで、水泳授業についての安全対策について伺います。

2. 学校給食費について

昨年12月の学校給食センター運営委員会において2024年度の学校給食費については値上げが妥当とする答申が出されましたが、国の補助金があったことから2023年度と同額に据え置かれることになりました。

給食費の無償化については、これまでたびたび取り上げてきましたが政府が全国一律で行うことが望ましいのは理解できます。ただ、これまで市議会として政府に対する意見書を出してきていますが、政府は文科省予算の約1割にあたる約5,000億円が必要と見積りしており、財源を主な理由としてなかなか進んでいかない現状にあります。

一方、全国の地方自治体の給食費をめぐる動きを見ていくと、給食費無償化に踏み出す自治体は年々増えていき、朝日新聞の調査によると、2017年から2023年の6年間で7倍にもなり全国1,741自治体中で、小中学校すべてで無償が547自治体（約3割）、小学校及び中学校どちらかだけ無償を含めると722自治体と4割以上となっています。

隣町の札幌市や石狩管内の他市町村では無償化している自治体はまだありませんが、札幌圏でいち早く取り入れることを考えてはいかがでしょうか。それが管内や道内の実施自治体を増やしていくことに繋がり、国による一律での実施を早めることに繋がっていくことになるのではないのでしょうか。

また、市内の子育て世代への応援、物価高騰に喘ぐ保護者の家計応援に加えて石狩市の魅力向上に繋がるのではないかと考えます。

子どもまんなかまちづくりを推し進める上で欠かせない施策だと考えますが、伺います。

3. 皮膚科医院誘致について

石狩市内唯一の皮膚科医院が閉院して1年になります。

この1年間、市民は皮膚に症状が出た時には、交通機関や自家用車を使って近隣市町村の病院を受診するという困難がありました。

皮膚科の病気は緊急に生死に直面することはないかもしれませんが、皮膚が痒くて痒くて夜も眠れないなど、市民から早期に市内へ病院を誘致するよう声を聞いています。

皮膚科医院の対応にかかる進捗状況について伺います。

4. 高齢難聴者への補聴器助成について

軽度や中等度の難聴の高齢者などに補聴器助成を行う自治体が2024年1月4日時点で238自治体になりました。

北広島市では高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定に係るアンケート調査を行ない、耳の聞こえに関することや補聴器の購入に関することについて質問項目を設け、高齢者保健福祉計画に高齢難聴者への補聴器助成制度を盛り込み、今年度補聴器助成制度がスタートしました。

千歳市でも高齢者への助成制度の検討がなされている動きがあります。
この良き流れを石狩市でも行う考えはないか伺います。

8番 金谷 聡 議員

1. 市内施設への更なるエアコン設置について

従来冷涼な気候で避暑地としても人気だった北海道ですが、近年地球規模で進行する温暖化の影響で最高気温が30℃を超える真夏日の日数が飛躍的に増加し、昨年2023年には7月20日から9月1日にかけて44日間連続で道内にて真夏日が観測されました。そのような状況の中で、ここ数年市内でもエアコンを設置する家庭が増えてきました。

当市におきましては積極的にエアコン設置を進められており、認定こども園や児童館、放課後児童クラブへのエアコン設置が既に完了しており、今年度は生振小学校の全教室に設置された他、各町内会館への省エネエアコン設置の助成金が創設され、家庭用省エネエアコンに関しましても抽選ではありますが助成金が準備されました。

また、次年度は市内の小学校全教室へのエアコン設置も計画されており、今後ますます熱中症対策が進んでいく見通しですが、

- ①その他公共施設へのエアコン設置の計画があれば伺います。
- ②学び交流センター等の社会教育施設への設置の考えについて伺います。

2. 公園内野球場への日除け設置について

先程の質問と同様に熱中症対策が必要なのは屋内ではありません。市内公園内の野球場でプレイする方たちからダッグアウト、つまり選手の控え席となるベンチの上に日除けとなる屋根を設置して欲しいとの声が届いています。

炎天下でプレイされる場合の熱中症対策として、ダッグアウトの日除け設置は大変有効であると考えます。以前、委員会においても同僚議員から熱中症対策について質問がありましたが、市の考えを伺います。

3. 融雪槽設置に係る助成金の拡充について

暑い夏の話の次には、来るべく寒い冬にも目を向けなくてはなりません。

冬期間の市民の最大の関心事の一つは、道路の除排雪です。

石狩市では、バスも走行する幹線道路や準幹線道路の除排雪を優先し、交通の確保を図っています。その成果もあり、石狩市の除排雪体制は近隣他都市と比較して優れているという声を市民の方からよく聞きます。

ただ、住宅街の中の細街路はどうしても除排雪の順番が後の方になってしまい、市民が不便を覚えることも少なくありません。

そこで、住宅前の雪山の解消に効果を発揮し、細街路の交通の確保に寄与するのが融雪槽

です。石狩市は豊富な地下水を有し、融雪槽の設置に適していると言われていています。ここ数年石狩市では、融雪槽設置に対する助成金制度を設けていますが、市民の関心も高く今年度は抽選の末、78%の方が助成金に当選し融雪槽を設置される見通しです。裏を返せば、22%の方が融雪槽設置を希望しながら助成金を活用することが出来なかったということです。融雪槽設置率が向上すれば市の除排雪予算の削減にも一定程度寄与するものと思われま

すが、市の見解を伺います。

4. フリーWi-Fiの整備計画について

フリーWi-Fiとは、無料で誰でも利用できるWi-Fiであり「公衆無線LAN」や「無料Wi-Fiスポット」とも呼ばれます。ネットワークIDとパスワードを正しく入力することにより、スマートフォンやタブレット、携帯型ゲーム機といった無線で通信可能な端末でインターネットに無料で接続することが出来るサービスです。セキュリティ面で注意が必要なものの、携帯電話会社などの通信量を抑えられるため、通信費の節約につながるというメリットもあります。

現在、石狩市では市役所本庁舎や厚田・浜益の各支所、りんくる、市民図書館、花川北・花川南のコミュニティセンター等といった公共施設にフリーWi-Fiが整備されていますが、

①今後更なる整備を計画されているか伺います。

②指定避難所への整備も必要ではないかと考えますが、市の見解を伺います。

5. 皮膚科誘致の進捗状況について

昨年9月まで花川北で開業されていた「花川皮膚科クリニック」が院長の死去に伴い閉院されてから石狩市内に皮膚科が存在せず、市内に皮膚科が開業されるのを待ち望む声が多く寄せられています。

今年の第1回定例会において同僚議員から誘致の進捗に関する質問があり、「地域医療の課題と認識しており、（中略）医療関係者への情報提供などに努めてまいりたい」との答弁がありましたが、市内への皮膚科の誘致に関しまして改めて進捗状況をお伺いします。

19番 青山 祐司 議員

1. 新型コロナワクチンの定期接種について

新型コロナワクチンの特例臨時接種は令和6年3月末で終了し今後は定期接種が始まると聞いておりますが、令和6年度の新型コロナワクチンの定期接種について3点伺います。

①ワクチン対象者やその自己負担額などを含め、実施方法の詳細について伺います。

②接種勧奨の有無を含め、市民への周知方法について伺います。

③万が一、接種により健康被害が生じた場合の救済制度について、従来との変更点を含め伺います。

2. 今シーズンの除排雪について

例年、市職員はもとより除雪・排雪に携わる全ての関係者の方にご尽力頂いている事に、まずは感謝と敬意を表するものであります。

さて、市道の除排雪事業は、言うまでもなく冬期間の市民生活を安全・快適に過ごすために極めて重要であるとともに、円滑な道路交通の確保は地域の経済活動を支える上で大きな役割を担う事業でもあります。

そこで本市の除排雪事業について、今冬シーズンに向けた体制づくりやその取組について伺います。

3. 再犯防止へ向けた本市の取り組みについて

法務省の統計資料によると、近年では刑法犯の検挙者数は減少傾向にあるものの、その検挙者の約半数が再犯者という状況が続いております。

罪を犯した人の中には、貧困や疾病、厳しい生育環境など様々な生きづらさを感じ、立ち直りに多くの困難を抱え、その困難さから再び罪を犯してしまうことも多いと言われております。罪を犯した人が二度と過ちを犯すことなく、社会の一員として生活を送る事ができるように支える再犯防止の取組を行う事は、ひいては安全で安心して暮らせる地域社会を構築する上で大変重要であると考えます。

以上の観点から、2点伺います。

①「保護司」について

罪を犯してしまった人の立ち直りを地域で支えサポートする保護司の役割は極めて重要であると考えます。

現在、市内では何名の方が保護司として活動されているのか、また人数は充足しているのか伺います。あわせて保護司の具体的な活動内容についても伺います。

②「地方再犯防止推進計画」について

国は平成28年12月に「再犯の防止等の推進に関する法律」を施行し、地方自治体に対して「地方再犯防止推進計画」の策定を努力義務としております。

現在、当市ではこの「地方再犯防止推進計画」は策定されておりませんが、今後策定する考えがあるのか伺います。

4. 町内会（自治会）の活動について

町内会は、その地域住民により自分たちの地域を住みよいまちにするために自主的に組織・運営されている団体であります。市の事業や行政事務に積極的に協力して頂き、市としても町内会が主体的な活動を展開できるよう支援し、相互の関係により総じて市民全体の暮らしやすく住みよいまちづくりに欠かせない団体であると考えます。全国的には、年々町内会の加入率低下が言われておりますが、当市の加入率の推移と現状について伺い

ます。

また、住民同士のコミュニケーションを図り、住みよいまちづくりをするため様々な活動をしている町内会ですが、その活動の一つとして町内会情報、防犯、防災、行政情報などの回覧があります。

今般、この回覧をする際の「回覧板」について、従来の折タイプから新たにA4大サイズの折曲がらないタイプの「回覧板」に順次変わっていくと聞いております。新たにA4大サイズの「回覧板」に変わる事となった経緯と内容について伺います。

5. 石狩市民プールの今後について

民間プールのない本市としては屋内かつ温水もある市民プールは年間を通じ住民が気軽にスイミングを楽しむ場、スクールを通しての水泳練習拠点として住民の健康増進やスポーツ振興に寄与しております。

また、催しなどにも利用できる多目的ホールも備えていることから、利用する市民にとってはかけがえのない施設であります。

しかしながら、本年4月に部分的に修繕を行ったように施設全体の老朽化が進んでおります。

石狩市民プールの今後について市の考えを伺います。

6. 宇宙産業に対する市の取り組みについて

大樹町の北海道スペースポートでの観測ロケット打ち上げ計画に際し、当市新港に本社と工場を置く「jtSPACE」でロケットの組み立てとテストを行うとの報道が、先日なされました。宇宙港を目指す北海道スペースポートへの一端を本市が担う事になると考えます。

宇宙産業に対する市の取組と考えを伺います。

1 番 遠 藤 典 子 議 員

1. 軟骨伝導イヤホンの活用による「聞こえ」の改善について

- ① 耳が聞こえづらい高齢者と窓口でのコミュニケーションを円滑に行うため、市役所窓口における軟骨伝導イヤホンの導入について
- ② 「聞こえ」の改善に向け、軟骨伝導イヤホンの無料貸し出しや高齢者の集う様々な教室などで体験できる機会を設け積極的に活用することについて

2. 書かないお悔やみ窓口の設置について

全国的に「書かない窓口」「お悔やみ窓口」の設置により市民サービスの向上を図る自治体が増えています。

死亡届を提出した後に生じる市役所やりんくるでの各種手続きを一か所(ワンストップ)で

行うことができ、かつ同じような書類を何枚も書かなくてもよいシステムの導入について、お伺いします。

3. 街路灯費に係る課題解決に向けて

町内会・自治会や街路灯組合で管理している街路灯に関し、近年町内会に加入されない方や途中で退会される方もおり街路灯費の未払いが生じ不公平感を招く上、地域コミュニティの希薄化にも繋がります。町内会加入を勧める役員の方には、そのやり取りで大きな負担となっています。

そこで、道路照明灯と同じく街路灯も市の管理として町内会で費用を徴収しないシステムを検討できないものでしょうか。

4. 自転車ヘルメット着用推奨の推進について

世代を問わずヘルメットの必要性を認識し、着用する環境づくりを進めていかなければならないと考えます。

- ①広報いしかり 5月号に「自転車安全利用五則」の中でヘルメット着用にも触れていましたが今後、着用に向けての更なる取組について
- ②環境づくりの一助となるヘルメット購入費の助成制度について